

利賀っ子だより



R4. 5. 19

○ 利賀っ子恒例のひとつ

本日 19日は5年生のAさんの誕生日でした。利賀小学校では、誕生日をみんなで祝うというのが恒例となっています。

誰がどのように話をまとめたのか、誰に聞いても「分からない。」という答えが返ってくるのですが、お祝いしようという気持ちがみんなにあるのは確かなようです。

この日も業間の時間にそれぞれがAさんに渡そうと折り紙で作った作品や手紙等を持って高学年の教室に集まってきました。Aさんも「こうなっていた。」と言いながらも、嬉しそうにプレゼントやお祝いの言葉を受け取っていました。その後、みんなでAさんの好きな「警どろ」をすることになり、体育館に移動していきました。

互いを大切にする子供たち、小規模校ならではの心温まるひとときでした。



【Aさん おめでとう】

○ 「なるほど・・・そういう訳か」



【そういう訳か】

始業前、3年生のTさんが、種を蒔いたポットの前で座り込んでいました。理科の時間にヒマワリ、ピーマン、オクラ、ホウセンカの種を蒔いたそうです。Jさんの「自分のポットの種から芽が四つも出ていた」という報告を聞いて、自分のはどうか確かめに来たとのことです。

「水やりした時は気が付かなかったけど、よく見ると芽が二つもあった。Jさんも（自分も）ヒマワリ（の芽）が二つ出ているから・・・どうやら、ヒマワリは芽が出るのが早いのかもかもしれない。なるほど・・・そういう訳か。」「そういう訳ってどういう訳？」「種類によって、いつ芽が出るか決まっている。」

3年生でも、目の前の事象から共通点を見出して演繹的に考えていることに感心しました。「すごいこと見つけたね。」と話す。「自主勉強で調べてみよう！」と返ってきました。比べながら観察できるように全員のパットを並べてあることがよかったのかもしれません。

今年度の目標「自分の課題を見付ける」子供を育てるためのしかけは、こんなちょっとしたことにもありそうだなと思いました。

（高田 公美）